

第7陣・活動報告

各地で奮闘中!



宮 城

●仙台拠点

【5/19-20】巨理町で活動。民家の庭で泥や砂の撤去作業、側溝清掃を実施。

【5/21】巨理町で活動。米農家からの依頼を受け、住宅と水田周辺の側溝で清掃作業。

現地から 500~700m 四方はあろうかという広さでしたが、一日で作業を終えることができました。

福 島

●福島拠点

【5/20-21】新地町と南相馬市で活動。新地町では、道路脇の側溝からの泥出し、清掃を実施。南相馬市では、納屋からの泥出しと家財道具の分別・廃棄を行う。

現地から 気温が上がり、暑い中での作業です。側溝での作業は、コンクリートのフタを外し、泥を土嚢に詰め、再びフタを戻す作業を繰り返します。炎天下での力仕事です。南相馬では水道が復旧していない現場もあるため、器材や靴・作業着の泥を落とすため、ポリタンクに水を入れて持ち込む必要があります。

●会津拠点

【5/20-21】郡山市、会津若松市、相馬市で活動。郡山班は炊き出し（野菜のカット、1,000人前の玉ねぎを炒める作業、味噌汁づくりなど）を実施。会津若松では、支援物資を倉庫から物資センターに搬入する作業を行う。炊き出し用の食材、衣類、バスタオルなどをワゴン車などでピストン輸送。相馬では、いちご農家でハウス内に流れ込んだ泥の撤去、ビニールハウスを再利用するための作業（ビニールシートや支柱の片づけ）を実施。

現地から 休日は一般ボランティアの参加が増えるため、平日に比べると作業量は少なくなるようです。炊き出し先では、被災された方とコミュニケーションを取る中で、避難生活のご苦労を目の当たりにするとともに、炊き出しの重要性を改めて認識しています。



■（写真上）雨水桝に詰まった泥、（写真中）作業中の様子、（写真下）きれいになった雨水桝（21日・新地町）

●いわき拠点

【5/21-22】いわき市久ノ浜地区での民家での片づけ作業を実施。ボランティアセンターでは、機材貸し出し・返却などの管理業務を実施。休日で一般ボランティアが多く訪れるため、ボランティアセンター入口での交通整理も行う。

現地から ボランティアセンターで貸し出している一輪車は連日の使用で消耗が激しく、動きが悪くなっているもの出てきました。そこで、連合チームのメンバーが車軸のメンテナンスなど修理を実施。ボランティアセンター事務局から大変感謝されました。



■清掃作業に入った民家の押し入れの奥にいた、生まれて日の浅い子猫たち。津波を乗り越えた新しい生命はここにも（南相馬・20日）

写真で見る各地の活動



■（写真下）連続写真で撮影した新地町の様子。津波の爪痕は陸地の奥深くまで続き、被害の凄まじさを示している（20日）

■（写真左）南相馬での清掃作業。乾いたヘドロは埃となって舞い上がる。マスクは必需品（21日）



■（写真中）ボランティアセンターの様子（20日）（写真右）1日の作業を終え、使用した機材の汚れを水で洗い流す。高圧洗浄機が活躍（21日） いずれも新地町のボランティアセンター

